新夕日ヶ丘自然再生区の状況

資料４-１

新夕日ヶ丘自然再生区の概要

- 1990年～2000年代にいちど目撃が途絶え、絶滅したとされかかっていたオガサワラシジミが再発見された場所
- その後自然再生事業として、小笠原で初となるグリーンアノール柵を設置
- アノール防除の試験、シジミ食草（オオバシマムラサキ、コブガシ）の植栽、外来植物駆除による在来林の再生を行なっている

- H31年度から、環境省の自然再生事業を普及啓発する場として、一部エリアを開放しいる

新夕日ヶ丘自然再生区で見られるいきもの

ハハジマヒメカタゾウムシ

オガサワラタマムシ

オガサワラトカゲ

オガサワラクマバチ

ハハジマメグロ

新夕日ヶ丘自然再生区における取組と利用促進について

新夕日ヶ丘自然再生区における環境省の取組

- アノール柵及びアノールトラップの設置により、柵内では引き続きアノールの低密度状態を保っている
  →ヒメカタゾウムシの生息密度が柵内＞＞柵外となっている
- 柵の一部補修、柵内外の草木の刈り払いや樹木の高所伐採を継続している
- 利用しやすさの向上のため、歩道整備や普及啓発看板の充実を進めている
- 子供向けイベントを実施、また近自然工法による歩道整備ワークショップを実施予定
- 令和５年度の利用者数は197人（ガイド73人、観光客84人、島民40人）
- 令和６年度末～令和７年度アノール柵を大幅改修予定

子ども向けイベントの実施

近自然工法による
歩道整備ワークショップ

ヒメカタゾウムシ

新夕日ヶ丘自然再生区の利用促進について

- 新夕日ヶ丘自然再生区利用促進のため、固有植物の植栽、自然体験イベント実施等を検討している

新夕日ヶ丘自然再生区パンフレット（表）

新夕日ヶ丘で会える！

季節によって会える生き物も様々です！ゆっくり過ごしてみませんか？

ハハジマメグロ

オガサワラクマバチ

オガサワラシジミ

ムニンヒメツバキ

トライオン ノミカイ

メジロ

オガサワラ トカゲ

オガサワラ チビクワガタ

画：島の子供

ムニン センニンソウ

アカガシラ カラスバト

ハシナガウグイス

オガサワラゼミ

オガサワラノスリ

ハハジマ ヒメカタゾウムシ

イソヒヨドリ（♂）

オガサワラ ヒバリモドキ

画：島の子供

オガサワラ タマムシ

アシナガグモ

画：島の子供

オガサワラ ヒヨドリ

新夕日ヶ丘で見える！

ザトウクジラのウォッチング！

陸上にいても ウォッチングできます！

小笠原は日本のホエールウォッチング発祥の地。ザトウクジラは、冬から春にかけて子育てのためにやってきます。開けた展望スペースのある新夕日ヶ丘は、母島では数少ないウォッチングポイント！ベストシーズン（12月～4月頃）は風が冷たくなっている時期なので、寒さ対策を忘れずに！

ブリーチング：
大きなジャンプ。行動の理由は判っていない。害虫虫を落とす為、コミュニケーションの手段、単に楽しんでいる等様々な説がある。

ブロー：
呼吸のために、水面に浮上した時に吐く息（潮吹き）。4～5m の高さ、にまっすぐ上がる。

フルークアップダイブ：
テール（尾びれ）を高々と水面上に上げ、（この時、角度によってはテールの裏側の模様が見られる）海中に潜っていくこと。

グリーンフラッシュ！

太平洋が一望できるこの場所で 夕日観賞がオススメです！

グリーンフラッシュ（緑閃光）は、気象や湿度などの条件が揃った時、日の出・日の入の一瞬，太陽の縁が緑色に光って見える奇跡の現象です。新夕日ヶ丘から夕日を観る時、水平線に雲がなかったらよく見てみましょう。完全に沈む直前に緑色の光が一瞬輝くように見えるかも!?

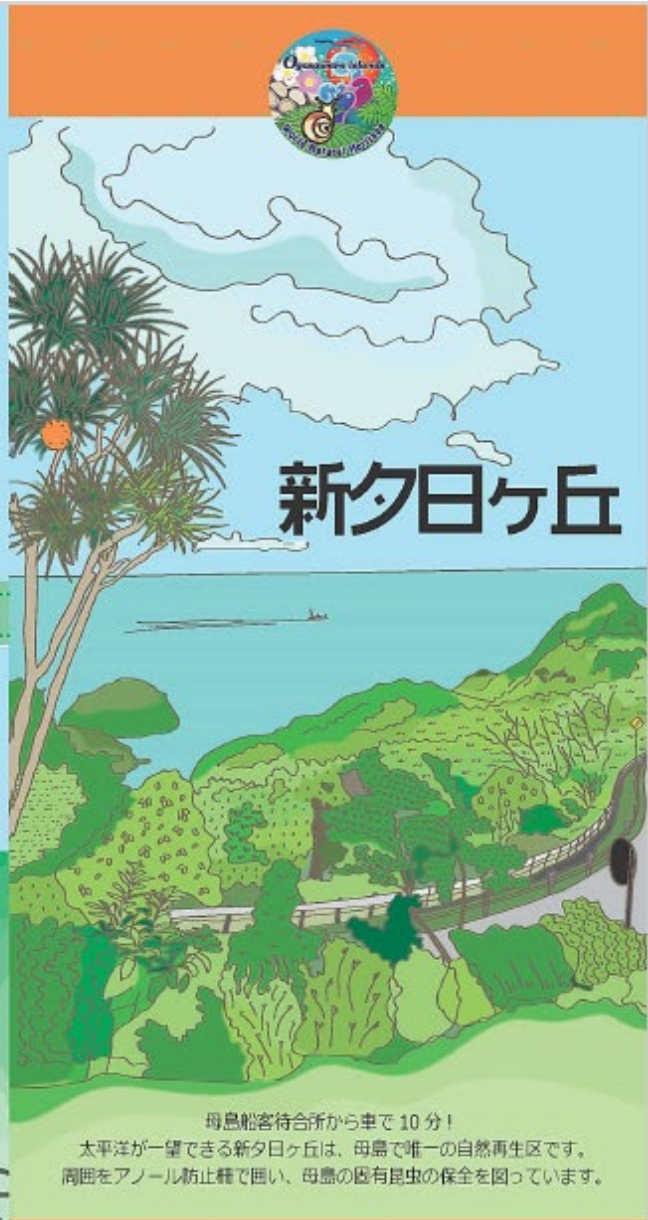
新夕日ヶ丘への行き方

船客待合所（母島観光協会）から
車で 10 分

▲集落内より北は、飲食店や自動販売機がありません。必ず水分を用意してお出かけください。

▲新夕日ヶ丘にはトイレがありません。事前に、観光マップや母島観光協会でご確認ください。

制作・発行 —— 環境省関東地方環境事務所
編集 —— 一般社団法人 小笠原環境計画研究所
写真提供 —— 母島の島民
デザイン —— ハヤシ ケイコ（母島在住）
2020年3月



新夕日ヶ丘自然再生区パンフレット（裏）

新夕日ヶ丘は母島で唯一の自然再生区

母島の西浦に位置する「新夕日ヶ丘」。夕日の景勝地として、また春にはオガサワラシジミが見られる場所として密かに知られていました。この場所に生息する希少な生き物を守るため、環境省が民有地を購入・取得。そして、2007 年に小笠原本来の生物相を保全する取り組み（＝自然再生）を行う「自然再生区」となりました。
（2019 年現在）

小笠原本来の生物相を保全する取り組みとは？

①オガサワラシジミの保護

シジミの餌木を増やしています！

オオバシマムラサキの植栽

母島のオオバシマムラサキは島内に広く分布しますが、生育地によって花期のズレや葉の毛の有無等かなり性質が異なります。新夕日ヶ丘には、花期が違う複数タイプを同所に植栽。オガサワラシジミが利用するのに適した場所を作っています。

オガサワラシジミ：
小笠原固有のチョウ。国指定の特別天然記念物。現在は母島のみに生息。昼のシジミ程度の大きさが名前の由来。春はコブガシ（固有種）、秋～冬はオオバシマムラサキ（固有種）を餌とする。

②グリーンアノールの防除

アノールを入れない！増やさない！

侵入の防止！ 防除柵と電気柵

グリーンアノール：
アメリカ合衆国原産のイグアナ科のトカゲ。1980 年代に父島から母島に侵入している。特定外来生物に指定。昆虫食。小笠原の昼行性の昆虫（チョウ、トンボ等）がアノールの捕食によって大きく影響を受けている。

設置年：2007 年。距離約 1,000m、高さ 100 ～ 180cm の防除柵は、上部にフッ素樹脂シート（滑りやすい）を取付け、アノールが入りづらいように外側へ傾斜をつけています。一部には、太陽光発電を利用した電気柵も！人が触ると「痛い」程度の電気が、1 秒間隔で通電しています。

柵内の防除！ アノールトラップ

柵内のアノールを捕獲するため、特別に開発された粘着トラップ（ゴキブリ用トラップのようなもの）を 5,000 個設置しています。月 1 回の頻度で点検・シート交換を実施。回収されたアノールは冷凍して内地の研究機関へ送り、分析されています。

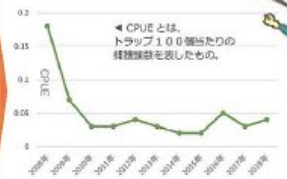
③外来種の駆除

アカギとデリスの駆除

自然再生区が設置された 2007 年当時は、アカギ等の外来種が増えつつありましたが、2010 年から駆除を開始。デリス（熱帯のツル性のマメ科植物。戦前、根茎から殺虫剤を作るために栽培された）の除去も同年頃から本格的に行われました。

その結果→

アノールは減っている！



年間約 600 個体のアノールが捕獲されています（2017 年度実績）。捕獲をしていない柵外と比較すると、アノールの密度を約 1/10 に抑制しているとの結果が出ています。

昆虫相は復活している！

▲新夕日ヶ丘に生息するハハジマヒメカタゾウムシ（母島固有種）。小笠原のヒメカタゾウムシの仲間は、飛翔的に進化・分化を遂げ、飛べない。

新夕日ヶ丘では 100 種類以上の昆虫が確認されています。ハハジマヒメカタゾウムシは 2018 年の調査により、柵外より 12 倍もの高い密度で生息していることが判明しています。

在来の森は再生している！

外来種駆除後、在来の樹木が自然に生えてきて、若い林が出来ています。徐々に【母島本来の在来樹の森】へと再生している様子は、在来種林再生の見本となっています。

近自然登山道工法で作った散策路MAP

◀『近自然登山道工法』とは、周りにある木々や自然の石を利用した道づくり。この政策路は、島の人たちと協力して作りました。見晴らしの良い場所には、丸太を敷き詰めて道幅を広くし、手作りのベンチを置いています。

▲自然再生区は広大な範囲ですが、散策路が整備されているのは、上の工区（拡大図部分）となります。

島の子供たちも!!

アカギ（外来種）を再利用して樹名板を作りました！

▲樹名板の説明文は、島の子供たちの言葉をそのまま載せています。

生態系について学びました！

▲新夕日ヶ丘で見つけた固有の虫を観察・記録したり、オガサワラシジミがたくさん来てくれるように、コブガシ等を植栽しました。

ご注意！

- ◀決められた通路外は入らないでください。
- ◀外来種を持ち込まないでください。
- ◀動植物はとらないでください。